

プールライフガーディング指導員養成講習会 指導要領【時間配分一覧】

章タイトル		学科(分)	実技(分)
1	プールライフガーディングコースについて	60	0
2	警備業法について	30	0
3	講習会運営時のリスクマネジメントについて	30	0
4	プールライフガーディングコース指導要領について	270	540
5	検定試験、開・閉講式、等	150	180
講習時間小計		540	720
		9時間00分	11時間50分
講習時間合計		1,260	
		21時間00分	

講習時間:21時間

- ・講習時間は最低講習時間数とする
- ・1日の講習時間は8時間を越えないことを原則とする
- ・講習時間には検定の時間を含める。

※JLAアカデミー 指導員資格認定に関する規程細則 第1条(指導員養成講習会内容)より

章タイトル	項目	時間	到達目標	指導内容／指導上の留意点
プールライフガーディングコースについて 【60分】 《使用教材》 ・スライド資料 ・検定要領	プールライフガーディングコースの背景・意義・経緯	5	プールライフガーディングコースが設立された背景を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国内で「プール」と呼ばれる施設は、概ね45,000ヶ所存在する。 ・日本では1年間に約10人程度がプールでの事故で亡くなっており、水辺での死亡事故の約1%に相当する。海や自然環境での水辺の水死者数と比べると非常に少ないが、ひとたび死亡事故が起きると社会的影響が大きくなるのがプールの事故の特徴である。 ・日本国内のプールの安全管理は、2006年の事故（ふじみ野市プールでの吸い込みによる幼児死亡事故）をきっかけに、2007年に「プールの安全標準指針」が示され、それを元に仕組みが構築されてきた。 ・JLAでは水辺の基礎的な安全管理の手法として、「ウォーター・ライフセーバー講習会」を行ってきたが、2011年よりウォーターセーフティ講習会、2017年よりプールライフガーディング講習会へその役割を移行してきた経緯がある。
	プールライフガーディングのねらい	5	プールライフガーディングの目指すねらいを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国内におけるプールは、そのほとんどが足が届く浅いプールである。プールの安全管理の多くは、事故防止・監視業務であり、救助自体も足が届くプールであれば必ずしも泳力が必要ではないため、事故防止の視点、監視のスキル、プール内を歩いて救助する、BLSや119番通報が出来る、などの最低限のプールライフガーディング技術の習得を目指した「プールライフガーディング講習会」を設定した。 ・「アドバンス・プールライフガーディング講習会」では、足が届かない深いプールでの救助、頸椎損傷が疑われる傷病者への対応、プールライフガードを取り纏めるチーフ・ライフガードとしての役割、などのさらにプールライフガードスキルを深め、かつ広める役割を担う者を育成するために設定した。 ・「プールライフガーディング講習会」と「アドバンス・プールライフガーディング講習会」は、あくまでもワンパッケージとしての受講を推奨する。資格の取りやすさと普及のし易さを考慮して2種類（2日間ずつ）に分けてはいるが、プールライフガードとして4日間を通した知識と技術の習得を目指すように促すこと。
	他団体の講習会について	5	他団体とJLAプールライフガーディングの違いを理解する。	日本国内において、プールライフガードにとって必要な知識と技術（安全管理（BLS、応急手当、監視、救助、緊急時対応計画=EAP）、衛生管理、施設管理、など）をワンパッケージで提供している講習会は他には無い。JLAは4日間ですれらを提供するカリキュラムを組んだ唯一の講習会であることを理解させる。
	プールライフガーディングコースの概要	5	プールライフガーディングコースの概要を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会名称は「プールライフガーディング」、資格名称は「プールライフガード」であることを理解させる。 ・それぞれの講習会における受講条件を理解させる。特に、BLS資格・ウォーターセーフティ資格の取り扱いがJLAアカデミー内の他のコースと若干異なること、泳力について。
	プログラム	5	プールライフガーディングコースのプログラムを理解する。	プログラム内容を理解させる。
	講習日程例	5	プールライフガーディング講習会とアドバンス・プールライフガーディング講習会の講習日程を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・プールライフガーディング講習会とアドバンス・プールライフガーディング講習会の講習日程のイメージを理解させる。 ・アドバンス・プールライフガーディング講習会におけるプールの水深や救助実技では足が届かないことを共有する。
	実技実施リスト	5	プールライフガーディングコースにて実施する実技を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・別紙「プール実技実施リスト」を参照し、理解させる。 ・プールでの実技の流れを一覧にまとめたもの。番号順に進めれば一通りの実技が実施できる。
	講習会で使用するもの	5	講習会で使用する様々な準備物や資器材を理解する。	特に応急手当や緊急時対応計画（EAP）、BLSで使用する小物類を、誰が準備するのか共有すること。
	プールライフガーディング講習会における検定方法	10	それぞれの講習会における学科・実技検定の種類、実施方法と合否判定を理解する。	学科検定（理解度テスト）・実技検定について、それぞれの実施方法と合否判定について理解させる。
	アドバンス・プールライフガーディング講習会における検定方法	10	それぞれの講習会における学科・実技検定の種類、実施方法と合否判定を理解する。	学科検定・実技検定について、それぞれの実施方法と合否判定について理解させる。
警備業法について 【30分】 《使用教材》 ・スライド資料	プール監視業務と警備業法	30	プールの監視業務と警備業法の関連性を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・プールの安全管理に関する2つのプール事故と、それぞれの事故をきっかけに示されたものであることを理解させる。 ①2006年：ふじみ野市プール→プールの安全標準指針 ②2011年：泉南市小学校プール→警備業法の適用 ・警備業法が適用される条件と、その影響を知ること。

章タイトル	項目	時間	到達目標	指導内容／指導上の留意点
講習会運営時のリスクマネジメントについて【30分】 《使用教材》 ・スライド資料		30	プールライフガーディングコース講習会運営におけるリスクマネジメントを理解する。	プールライフガーディングコース講習会運営で起こりうるリスクを知り、事前準備と発生対応が出来るマネジメントを理解させる。
プールライフガーディングコース指導要領について 【270分】 《使用教材》 ・指導要領 ・教本 ・水泳プールの安全管理マニュアル ・補足資料 水質管理 実技の進め方	プールライフガーディング講習会の学科講義 ・第1章～第5章まで ・理解度テスト①	90	プールライフガーディング講習会の指導要領【学科】を理解する。	プールライフガーディング講習会の指導要領をもとに、要点を説明する。
	プールライフガーディング講習会の学科講義 ・第9章 ・理解度テスト②	30		・プールライフガーディング講習会の指導要領をもとに、要点を説明する。 ・学科講義中に展示する応急手当のデモンストレーション(傷の対応、RICE処置、鼻出血対応、下腿/ふくらはぎや大腿部の足の痙攣)の確認を行う。
	アドバンス・プールライフガーディング講習会の学科講義 ・水泳プールの安全管理マニュアル ・水質衛生管理教育	60	アドバンス・プールライフガーディング講習会の指導要領【学科】を理解する。	・別冊「水泳プールの安全管理マニュアル」とアドバンス・プールライフガーディング講習会の指導要領をもとに、要点を説明する。 ・補足資料(水質管理)を用いて、水質基準の考え方を理解させる。
	アドバンス・プールライフガーディング講習会の学科講義 ・第6章	30		・アドバンス・プールライフガーディング講習会の指導要領をもとに、要点を説明する。 ・補足資料(EAP実技の進め方)を用いて、EAP実技の運用について説明する。
	アドバンス・プールライフガーディング講習会の学科講義 ・第8章	30		・アドバンス・プールライフガーディング講習会の指導要領をもとに、要点を説明する。 ・頸椎カラーの取り扱いと装着方法について説明する。
	アドバンス・プールライフガーディング講習会の学科講義 ・第11章	30		アドバンス・プールライフガーディング講習会の指導要領をもとに、要点を説明する。
検定試験、開・閉講式、実習打合せ、等【150分】	開講式	30	指導員紹介、スケジュールの確認、など	
	学科検定	60	学科検定試験	
	閉講式	60	修了証の配布、合否発表について、今後の事務連絡、など	
学科講習合計(分)		540		

章タイトル	項目	時間	到達目標	指導内容／指導上の留意点
プールライフガーディングコース指導要領について 【540分】 《使用教材》 ・指導要領 ・補足資料 実技の進め方	プールライフガードに必要な基礎的技術 ・基本泳法 ・横泳ぎ、立ち泳ぎ(巻き足) ・サーフェスダイブ ・救助器材を用いた泳ぎ方	60	プールライフガードに必要な基礎的な泳ぎ方を理解し、そのデモンストレーションを習得する。	・プールライフガーディング講習会およびアドバンス・プールライフガーディング講習会の指導要領をもとに、要点を説明する。 ・それぞれの手技の確認とデモンストレーションを実施する。
	泳がない救助方法について ・器材の説明と使い方 ・救助の基本 ・基本的スキル(溺者の確保、など) ・トローイング、キャリー ・リフトアップ ・救助の一連の流れ	180	足が届く浅いプールにおける、泳がないで救助する技術を理解し、そのデモンストレーションを習得する。	・プールライフガーディング講習会の指導要領をもとに、要点を説明する。 ・それぞれの手技の確認とデモンストレーションを実施する。
	泳ぎを伴う救助方法について ・意識あり、なし ・エスケープ ・ディープサブマージレスキュー ・救助の一連の流れ	120	足が届かない深いプールにおける、泳ぎを伴って救助する技術を理解し、そのデモンストレーションを習得する。	・プールライフガーディング講習会およびアドバンス・プールライフガーディング講習会の指導要領をもとに、要点を説明する。 ・それぞれの手技の確認とデモンストレーションを実施する。 ・「ディープサブマージレスキュー」では、水深3m以上の深いプールにおける救助方法を習得する。深いプールで実施出来ない場合は口頭説明に留める。
	頸椎損傷が疑われる場合の対応 ・自発呼吸あり(意識あり) ・自発呼吸なし(意識なし) ・足が届かない深いプールの場合	90	頸椎損傷が疑われる傷病者に対する救助の技術を理解し、そのデモンストレーションを習得する。	・アドバンス・プールライフガーディング講習会の指導要領をもとに、要点を説明する。 ・それぞれの手技の確認とデモンストレーションを実施する。
	一次救命処置について ・溺水時のBLS ・PBLS ・頸椎損傷が疑われる場合のBLS	60	プールライフガードとして必要な溺水BLSの技術を理解し、そのデモンストレーションを習得する。	・プールライフガーディング講習会およびアドバンス・プールライフガーディング講習会の指導要領をもとに、要点を説明する。 ・補足資料(実技の進め方)を用いて、EAP実技の運用について説明する。 ・それぞれのBLS手技の確認とデモンストレーションを実施する。
	プールライフガーディング実技の補足説明 ・プール形状の違い ・ケースバイケース ・その他の補足、反復練習	30	プールの形状は様々であることから、その状況に合わせた講習指導を行うことを理解する。	・様々なプール形状や事例を取り上げ、その状況に合わせた指導が出来るように理解させる。 ・時間の許す限り、デモンストレーションの練習に取り組みさせる。
検定試験、開・閉講式、等【180分】	実技検定/学科指導	120	・指定された1つの項目を約10分間で実技検定を行う。 ・他の受講生からのフィードバックを各検定後に行う。指導員(検定員)からのフィードバックは行わない。	
	実技検定/実技デモンストレーション	60	チューブレスキューの一連の動作、トローイング技術のデモンストレーションの実技検定を行う。	
実技講習合計(分)		720		